

学びの構えを支えとした学力向上への取り組み

岡山県笠岡市金浦小 前田知之

1. はじめに

学力向上を目指す研究が、様々な視点からさかんに行われている。その中で、問題解決能力の向上に関する研究が多く見られる。また、基礎学力（計算力）及びその支えである家庭学習時間等の学びの構えの向上を目指す実践も行われている。

しかしながら、学びの構えを支えとして、基礎学力のみならず問題解決能力の向上も目指した取り組みは十分ではない。

そこで、「学びの構えの育成が学力向上の大きな支えであり、生涯にわたって学習していく上で大切な要素である。」さらに、「算数教育においては、計算力と問題解決能力の向上をセット化した年間の取り組みが必要である。」という考えのもとに、上記の研究主題を設定し、実践を行った。

2. 研究の内容

学びの構えと計算力向上への取り組みや「数と計算」領域を中心とした単元の構成や展開を工夫する取り組みを通して、児童の計算力・問題解決能力・態度の向上を図るとともにそれぞれの取り組みの関連や効果について考察する。

(1) 学びの構え向上の取り組み

○生活調べから基本的な生活習慣の指導をする。

・担任はもちろん養護教諭や学校保健委員会とも連携を図る。

○学びの構えの項目から随時指導する。

・定期的に自己評価させるとともに随時指導していく。

○懇談、通信等で保護者との連携を図る。

(2) 計算力向上への取り組み

かけ算とわり算を中心に100ます計算を実施し、計算力の向上を図る。

○朝の学習

○授業で週1回程度

○家庭学習で週1回程度

(3) 問題解決能力向上への取り組み

「小数のかけ算・わり算(1)」 「小数のかけ算・

わり算(2)」の単元で以下の工夫をして実践を行った。

○新出の計算につながる既習の計算の復習を位置づけるように単元を構成をする。

・(1)では「4年生のかけ算・わり算の復習」を1単位時間、(2)では、「小数のかけ算・わり算(1)の復習」を1単位時間、単元に位置づけで実践した。

○問題解決にあたっては、課題やまとめの一般化を図るとともに、4つの学習過程で評価規準を設定した取り組みを行う。

・振り返りカード等で児童にも常に意識づけしながら取り組んだ。特に集団解決の段階での評価（「いつでも」「はやく」「かんたん」「せいかく」という視点で友達の考えを比較検討できているか等）を大切にしている取り組みだ。



3. 研究のまとめ

○学びの構えにおいては、向上した者とあまり変化がない者がいるが、全体としては向上の跡が見られた。

○計算力については、全員が向上した。

○問題解決能力については、評価の視点を意識することにより、向上の跡が見られた。

○学びの構えを支えとした計算力と問題解決能力の向上に、学校ぐるみで取り組むことで、より一層効果が期待できる。